

中国美術から着想を得た庭園

1780 年代に作られた英雲荘の庭園は、江戸時代に毛利重就（1725～1789 年）によって建設された中央部の建物と同時期のものです。焦点となる池は、美しい景観が有名であり、中国の画家に人気のある題材となっている中国の洞庭湖を思い起こさせる設計です。庭園の岩石は山口県全土から集められました。特に注目すべきなのは、島の端にある石灯籠真横の亀石と、池の対岸に設置された手水鉢（水を貯める石の器）です。

水琴窟（日本の水音楽）

邸宅中央部のベランダの真横に、興味深い特徴をもつものがあります。1780 年代に作られた水琴窟です。手水鉢から柄杓 1 杯の水を基礎部分の黒石に掛けると、石の間からしみ出して水滴になり、水滴がポトポト落ちることで反響音を作り出します。このような音は、基礎部に穴を開けた陶器の壺型の甕を逆さまにして、石の下に埋めることで作り出されます。甕の側面には、下に溜まっている水の上に水滴が落ちることで、水滴音を増幅させる反響空間が形成されています。

上記装置は水琴窟と呼ばれています。翻訳すると「水琴の穴」であり、生み出される音は、日本の有棹弦楽器である琴の音に似ています。風鈴のように音で涼しさを感じられてリフレッシュできます。確実に洗練された一種の娯楽であり、裕福な人間や、毛利重就と同じような趣味を持つ者を喜ばせるものです。

茶屋内にある茶屋

庭園の一角に花月楼（茶屋）があります。花月楼は、1786 年に周防国分寺で建設されたものが、1888 年に解体されて再建されました。花月とは、8 畳の畳部屋でお点前を 5 人 1 組で行う茶道の作法のことで、18 世紀方式のものです。花月楼（茶屋）には、さまざまな大きさの異なる部屋があります。これにより 30 人まで収容可能になり、様々な茶道方式に対応できます。